

施策評価表

1次評価日（課長等）	26年10月1日
2次評価日（部長等）	26年10月1日

1 施策の概要

施策名	道路の整備	コード	14-1
この施策の主な内容（細施策）	①基幹道路の整備、②生活道路の整備		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	幹線道路や生活道路の整備を推進し、市民生活や地域経済、地域間交流を支える。		
担当部課	部 建設水道部	課等 土木課	作成者 古川 幸男

●施策の実施内容（D0）

2 施策指標の達成状況

*第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：25年度）

施策指標名	単位	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
① 都市計画道路の改良率	%	54.34	55.49	55.23	57.46	104.0%	56.98	57.12
指標説明	都市計画道路(市内30路線)の改良済み延長の率。指標が増加することにより整備状況が把握できる。目標値は計画値。							
② 生活道路の新設拡幅道路供用累積延長	m		221,316	222,166	222,298	100.1%	223,016	223,616
指標説明	第4次総合計画後期基本計画（平成26～30年度）における、道路拡幅により、幅員4m以上に達した規格改良道路延長の累計							
③						#DIV/0!		
指標説明								

3 施策全体にかかる合計コストの推移

*項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	23年度	24年度	25年度	26年度（予算）
直接事業費	737,666	679,185	801,631	1,188,710
人件費	124,000	123,200	129,600	130,000
合計コスト	861,666	802,385	931,231	1,318,710

●施策の評価（CHECK）

4 施策の現状評価

*25年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

基幹道路の整備としては、県事業の田中線（湖畔若宮地区）、岡谷川岸線（成田町3期工区）が実施されている。市事業では、若宮線が完了し、東町線においては、第3工区の用地協議を継続実施した。その他、岡谷市の重要な政策である新病院建設に合わせた周辺道路整備に着手した。また、国道20号の現道改良、バイパス建設促進に向けた事業協力や県道下諏訪辰野線バイパス整備促進のための事業を実施した。

生活道路の整備としては、市民生活に密着した29箇所道路整備を行うとともに、定期パトロールを実施して計画的若しくは予防保全型の維持修繕を行ない安全を確保した。また、境界立会、占用工事の許可等適正な道路管理を行なった。

施策全体としては、厳しい財政状況の中でもほぼ計画どおりの事業進捗が図られた。

*岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	事業に対する地域の協力が得られている。
岡谷市の弱み	厳しい財政状況の下、投資的経費への予算配分を抑制せざるを得ない状況である。

5 今後の外部環境の変化

*27年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	国の現行補助金制度あるいは変更制度の多様化に合わせ、必要な事業財源を確保する。
不利に働くもの	地方財政事情が悪化しており、各自治体でも補助金獲得の動きが以前より激しくなっている。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成27年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	地域幹線道路や都市計画道路の整備については、関係機関への要請や補助金等の財源の確保を進め、早期に事業効果を発現できるよう継続実施する。 道水路施設の老朽化が進み、維持補修事業の必要性、緊急性が高まっており、計画的、予防的な方策も加えながら優先的に事業を実施する。生活道路に係わる道路新設改良事業は、補助金等の財源の確保を進め、更に選択と集中を徹底し、整備効果が見える、効果的、効率的な事業実施を図る。また、道水路管理事務は適正かつ効率的な事務執行を行なう。
見直しを行う分野	特になし

●27年度の優先度

* 事務事業の方向性が「継続」の事業についてA～Cにランク付け
 A：拡大、B：現状維持、C：見直し、－：廃止・完了・統合

直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	指標名	単位	成果指標				妥当性	方向性	優先度
							直接事業費		人件費				
							23年度	23年度	23年度				
							24年度	24年度	24年度				
							25年度	25年度	25年度				
							26年度	26年度	26年度				
1	建設	あり		地域幹線道路整備促進事業	進捗率	%	65.0	39,492	3,200	—	継続して実施	A：拡大	
							67.1	11,247	6,400				
							72.8	29,925	4,000				
							—	50,900	4,800				
2	内部	その他		スマートインターチェンジ整備事業	—	—	—	0	0	—	継続して実施	B：現状維持	
							—	0	0				
							—	62	800				
							—	2,650	1,200				
3	建設	なし		間下東街道線整備事業	進捗率 (直接事業費)	%	—	—	—	—	26年度未完了	完了	
							7.9	6,579	4,000				
							—	76,500	12,000				
							—	8,500	12,000				
4	建設	なし		都市計画道路東町線整備事業	進捗率 (直接事業費)	%	67.9	8,903	800	—	継続して実施	B：現状維持	
							67.9	0	800				
							68	0	800				
							—	0	0				
5	内部	あり		道水路等維持補修事業	—	—	—	271,499	29,600	—	継続して実施	A：拡大	
							—	274,328	25,600				
							—	197,988	28,000				
							—	703,201	28,000				
6	建設	あり		道路新設改良事業	進捗率 (直接事業費)	%	18.2	404,331	28,000	—	継続して実施	C：見直し	
							29.6	344,405	28,000				
							—	478,419	28,000				
							—	376,962	28,000				
7	内部	あり		橋梁管理事業	—	—	—	4,953	2,400	—	継続して実施	A：拡大	
							—	7,510	6,400				
							—	12,601	4,000				
							—	39,257	4,000				
8	内部	あり		道水路管理事務	—	—	—	8,488	60,000	—	継続して実施	B：現状維持	
							—	35,116	52,000				
							—	6,136	52,000				
							—	7,240	52,000				
9													
10													